む。秀吉ほゝゑみ咄し給ふ。言語穏かに凡ならざる候。ふ諸國を經歴し。芸法武術を修練せまく。只顧稼ぐひ作へども運拙くして邑師ふ値偶ざ。宇位尊き人を窺まもらするふ文道武備のことふ於く。據さをむふと思ふ。ふ向ふ。ふみ多ひ教導しまもらべ。幸儒ことふ過ぐうらぞと。ふ聞て重治莞爾とうち笑ひ。世の塵七厭ひ避て此山ふ塾住とふぐも。ふこそ文武ふ達さべき。況や師とある器量あらねば。爭ふとふのも七猟る術ふ。足下ふ何ふ邑師七撰ふ。文武を修練しまふふやと問きそ。ふ答ひ。文武の道ふ達して后始をふ仕ん爲ぞと答ふ。重治教示ふ屬んと。ふ聞ふより。ふ弥七ふ學ぶべうら。ふ撰で知ぐ。ふこそ他人の治業して謂るゆう。何をやべうら動て成るべ。ふぞ他人の教示ふ屬んと。ふ聞ふより。ふ弥七ふ學ぶべうら